

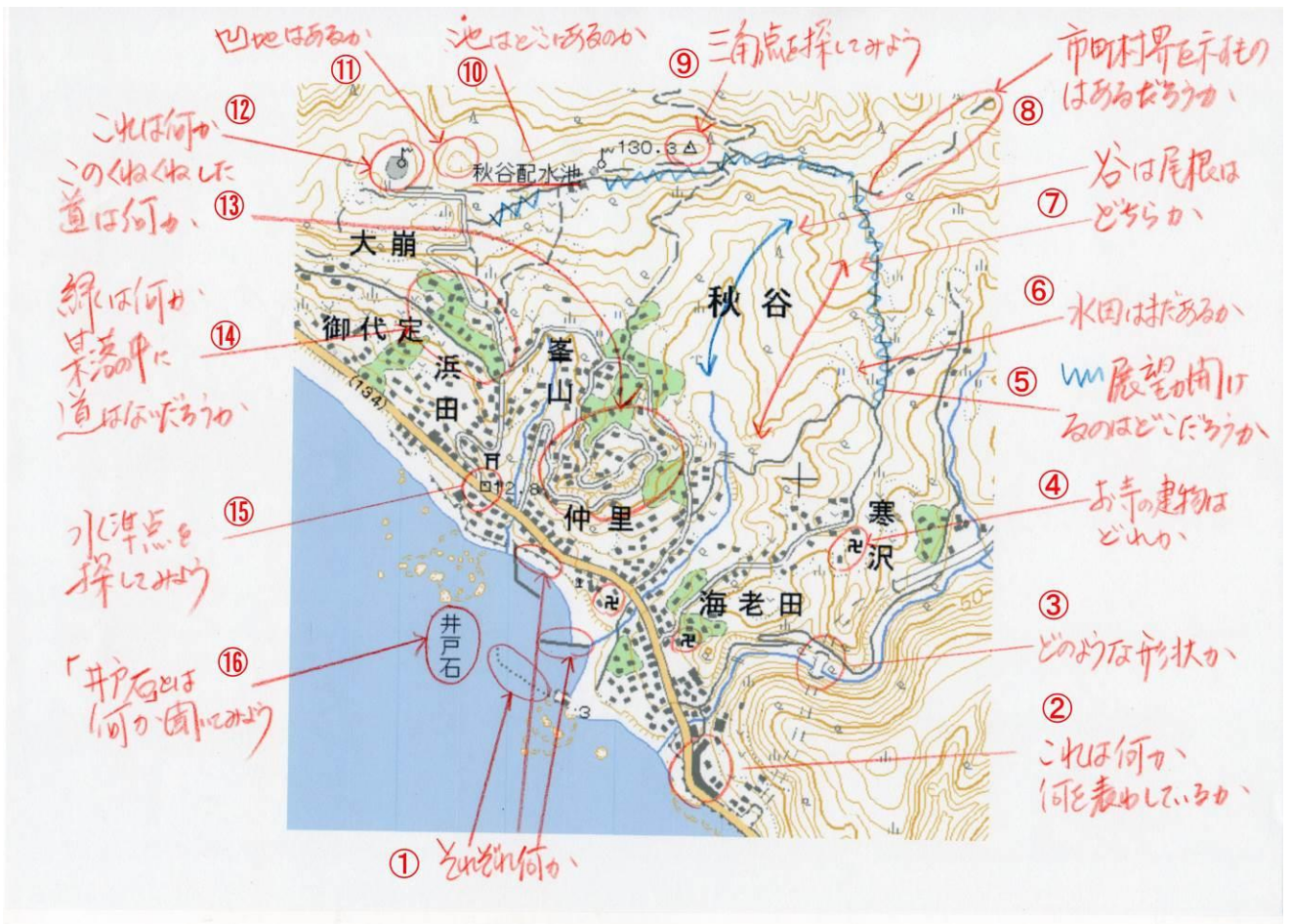
「地図豆」の地図を広げて街歩き

71-1 葉山秋谷で地図読み（距離約 4.5km）

地形図を使うためのキホンの手はじめとして、街歩き・野歩きに使用する地形図の地図記号などを知るために、神奈川県横須賀市と逗子市の界にある「秋谷」集落の北の小山を訪ねてみます。

といっても、突然ここをたずねるのではなく、事前に地形図を入手し、これを広げて机上散歩をして、「これは何、これはどうして」などと地図の内容と地図記号などについての疑問点を書き込んでからでかけてみるといいでしょう。

地形図の知識を向上させる目的だとしても、現地街歩きでは、これは綺麗だ、これは懐かしい、ここにはどのような謂れがあるのだろうかといった、本来の興味を失ってはけません。



秋谷で地図読みする地形図

【街歩き解説】

①海岸付近の砂浜にある、線に半円形がついた記号は、片側にだけ傾斜のある「擁壁」です。両側に半円形がつけば両傾斜のあるものです。

そして海に突き出た黒の太い線は、ごく普通にいうところのコンクリート製などの「防波堤」ですから、両面に傾斜がありますが、半円形で描くほど幅のないものです。

大きな幅を持つものになれば両側に「擁壁」の半円形の記号を描きます。そして、丸点が並んだだけの記号は「テトラポット」を積み上げた防波堤です。

こうした疑問を書き上げてから現地に出かけて、地図とじっさいとを対比してみると理解が深まります。



防波堤（大）、防波堤（小）、水制（テトラポット）、被覆（大）、被覆（小）

② ここにある大きな黒いものは、建物です。ところが、その内容には二通りあって、その一つは、地図にばらまかれたようにある小さな建物と同じように幅が狭くても長い独立した一個の大きな建物の場合。そして、現地では小さな建物がたくさんあっても、そのまま書ききれないので、集合体として表現した場合です。後者の表現方法を「総描」といいます。

それぞれ独立建物（小）、総描建物（小）と呼びます。さて、現地はどちらでしょう。漁港近くの狭い平地に発達した集落、すなわち後者であることが予想されます。

ちなみに、独立建物（大）と総描建物（大）とは、一定程度広がりのあるもので、全体枠線の中を斜線で表現します。



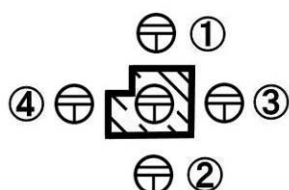
独立建物（小）、独立建物（大）、総描建物（小）、総描建物（大）

③現地では、ちょっと複雑な立体交差が見られるはずですが。最も下には川が流れ、その上を二車線の道が横切るので、その道の左右には坑口があります。二車線の道はトン

ネルを抜けると同時に橋で川を渡し、すぐにまたトンネルに入るはずでず。その坑口より高いところを小型自動車道路が通過していますから、ここから見下すと谷間の全風景が見えるはずでず。

④ 地図に、お寺の記号が三か所ありますが、それぞれの建物はどれを指しているのでしょうか。記号のごく近くにあつて、中心線が一致するものが当該建物でず。事前に予想してから現地で確かめてみます。

建物記号は、その建物の近くに、それぞれの建物の向きにかかわらず、常に図郭下辺に対し直立するように表示します。その、建物記号を表示する位置は、建物の中央が第一優先でずが、建物が小さくてその中央に表示出来ない場合には、建物の上方や下方に表示します。もし、建物の上方などに他の重要なものがあつて、その位置に記号を表示することが不適当な場合には、建物の右や左に表示するのがきまりでず。



建物と記号の位置関係

⑤ この辺りの山に登ると、相模湾が一望にできるはずでず。しかし、どこからでも見えるとは限りません。視界が開けるためには、海岸方向を遮る山が無いことはもちろんのこと、谷の中を進む道ではたとえ海が見えても、その範囲は限られます。となると、目標方向に遮るものがない尾根をたどる道で、森林などに覆われていないことが条件になります。

遮るものがあるか、ないかを確実に知るには、断面図を描いてみるのがいいでしょう。しかし、展望を確かめるたび、展望する方向ごとに断面図を描くのでは、効率的ではありません。等高線から立体が想像できるような地図読み力といったものが必要になります。

じっさいには、東西に延びる尾根近くを通過する道のうち、その南斜面を通り、しかも海方向に延びる尾根が視界を遮らない秋谷配水池の辺りでいい展望が得られました。



配水地付近から寒沢集落の対岸の日影山尾根を望む、そして配水池先から相模湾谷は、尾根はどこだろうか。「高い方から見て指を広げてV字形と一致するところが谷だ」などのことから地図と現地を対比してみます。



針葉樹林、広葉樹林、竹林、笹地、ヤシ科樹林、荒地

⑥ 地図は時々のようなすを表現したものです。したがって作られた瞬間に、古い地図になってしまうものです。ここにある地図は、「平成18年更新」のものですが、それは主要な内容だけの更新であって、植生などは「平成10年修正」を反映していると思われます。道端の田は、畑は今もあるでしょうか、現地で確認してみます。



田、畑、果樹園、茶畑、樹木畑、桑畑

⑦ ここにあるのは郡市界を示す記号です。現地の主要な国道などには、それを示す案内看板なども設置されていますが、こうした山の中ではどうでしょうか。境界を示す杭などの設置はあるでしょうか。案外、地図上だけのことで何もないことが多いものです。

この辺りの境界は、25000地形図では最初は道路の南、そして北を通過しています。

地図のきまりでは、じっさいの境界位置が道路の中心線であっても、地図上の道路幅が狭ければ、その左右いずれかの外側に描きます。

ところが、1万分の1地形図を参照すると、道路記号の中心に行政界を描けないほどの狭い道路の北側に行政界がありますから、地図の表現に間違いが無ければ、正確な行政界の位置は道路中心か道路の北側にあることになります。



⑧ 地図を作るためのもとになっている三角点を探してみます。東西に延びる道路のやや北の尾根にあります。少しの藪こぎでも方向を見失わないように注意します。

測量標石の多くは、遠く小豆島から運んできたものです。標石の刻まれた文字から等級がわかり、「三角点」の文字が南方向になるように埋めるのがきまりです。



三角点「秋谷」

⑨ 「秋谷配水池」は文字の頭、末尾のどちらにあるのでしょうか。「池」？はあるのでしょうか。注記文字は、主要な地物を隠さないように、そして見やすいように工夫して配置しますから、上下左右どちらに表現することもあります。

この場合の配水池は、「池」ではなくタンクといったもので、文字の末尾に小さな「建物類似の構築物」として表現されています。1万分の1地形図で水色の表現があるのは間違いです。



建物類似の構築物、樹木に囲まれた居住地

⑩ 凹地は、文字どおり地表のへこんだところを表現します。火山の火口やカルスト台地、砂丘、山稜の片方が谷側へずり落ちてできる二重山稜などでみられます。さて、どうしてここに凹地があるのかと疑問を持って、現地でのぞいてみましょう。

近くには「大崩」という地名もあり、現地には「地すべり防止区域」の看板もありました。等高線のようにすからも、こうした地形との関連が予想されます。じっさいは、樹林が深く凹地の存在は一般者にはわかりにくく近づけません。



凹地（大）、凹地（小）

⑪ 山頂には二か所に電波塔があります。一つは秋谷配水池のとなり、そして一車線道を上り詰めた西の峰です。後者は、「建物類似の構築物」の上に立っていますから、「それは何か」を含めて現地で確かめてみます。

じっさい、前者は電話会社の携帯電話用のアンテナ、後者は航空局の航空保安施設のようなです。

ちなみに、風に関連する地図記号の噴火口のけむり、自衛隊の旗、温泉のゆげなどは、すべて西からの風を受けていますから、「地図には西風が吹いている」ともいえます。さて、電波（塔）も風の影響を受けるのでしょうか？



風にたなびく地図記号、煙突、噴火口・噴気口、自衛隊、温泉、電波塔

⑫ 古くからの道路とは異なるパターンのくねくねとした道路は、別荘地などの新しい住宅地道路の特徴でした。そうしたいい予断を持って現地を確認してみます。

⑬ 前にも紹介しましたが、ネットの地図では緑に塗られた（紙地図では黒の網点）、別荘地に対比されるように広がる住宅地は、「樹木に囲まれた居住地」です。一般には、古くからの集落に使用されます。軍用目的の地図の時代には、見通しの取れない地域として区別されてきました。現在は、楽しい道歩きの出来る地域と重なることが多いでしょう。そして、こうした集落の中には網の目のように小路が発達していますが、省略されることが多いものです。

⑭ 地図を作る際の高さの基準点となる「水準点」も探してみます。三浦半島から東京までの間は、毎年のように水準測量をしていますから、標識もあって見つけやすいはずです。

⑮ 海の中にある岩につけられた「井戸石」はどのようないわれがあるのでしょうか。海のことなら、地元漁師さんに聞いてみるのがいいでしょう。

このように、身近なそれぞれの近郊都市で、ある程度の物と形（地物・地形）が含まれた地域を選定し、おなじように机上散歩を試み、それを手にして現地を訪ねると知識が深まるはず。これを繰り返すこと、新たな疑問を見つけることで、しだいに地図知識を自らのものにするといいいでしょう。

地図に関する基本的な知識を獲得するといっても、そう堅苦しく考える必要はありません。「ああ、そうだったのか」「ふーん、そのような意味があったのか」などと、感じるものがあれば目的は達成です。そのことで、地図の楽しさが少しわかればいいのです。地図記号のキホンをしっかり固めておきたい人は、疑問を感じた時に地図のきまり「図式」を振り返ることにします。